

がん患者の心のケア学ぶ

那覇市講座 看護師ら66人参加



「がんカウンセラー養成講座」でグループワークを行う参加者ら—21日、那覇市立病院

保坂隆さん



保坂隆さん
が21日、那覇市立病院で開かれた。看護

がん患者の心のケアを現場で最も身近にいる看護師らが学ぼうと、聖路加国際病院精神腫瘍科医の保坂隆さんを招いた「がんカウンセラー養成講座」(サバイバーナースの会「びあナス」主催)が21日、那覇市立病院で開かれた。看護

師だけでなく医師、ヘルパー、当事者など66人が参加。県内でも2011年度中の県がん対策推進条例の制定に向けた動きが進む中、告知の問題や患者の精神症状にどう対応するかなどを保坂さんが説明。参加者は実践的なグループワークも行い、それぞれががん患者との関わりを考えた。保坂さんによると現在の国内のがん告知率は6割ほ

どで、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)の導入時期も重なって15年前の3割から倍増している。

「がん患者の3分の1は心のケアを必要としている」と指摘した保坂さん。適応障害やうつ症状の出たがん患者に対し、看護師など周囲の人ができることとして、声掛けや症状の発見から専門的治療への橋渡しが必要だとした。